

会報第25号発行に寄せて



会長 K/T

平成28年度会報、第25号をお届けします。会報は第25号ですが、会の立ち上げは平成8年3月24日なので、会は丁度満20年を経過したことになります。会も、会活動のまとめとしての会報も良く続けました。それというのも、会に賛同し支持して下さる会員の皆さんが続き、また会活動を推進する幹事の方々も続いていればこそだと思います。

私達新津ハイキングクラブは、登山やハイキングを愛好するという一点で繋がる、いわゆる趣味・同好の会ですが、会員の健康増進、生きがいつくり、という点で結果として一定の社会貢献となっています。また今年度は登山道整備から少し引きましたが、遊歩道の草刈りや高年者への軽登山サポートなど、ささやかではありますが、今年も直接的な社会貢献をすることが出来ました。

ただ、“趣味の会”といっても他の多くの中高年者向きのそれと違う点は、身体ひいては生命の安全に直接かかわっている活動だということです。会としても、1) (本格的な) 雪山登山 2) 危険な沢登り 3) ロッククライミング など難易度が高く著しく危険を伴うこれらの活動はしないことに決めています。それ以外であっても危険はゼロではありません。また本人の状況次第では極く普通の所でも危険は生じます。いたずらに怖がってばかりいては何にも出来ませんが、案内役の幹事も参加する方も、それぞれなりの心得と注意・努力が要ります。ただ会員の皆さんから承知しておいて頂きたいことは、山行を担当する幹事はあくまでも、登山やハイキングと一緒にする同好の仲間の内の一人で、案内役を努める者だということ、そこがツアーガイドと根本的に違う点です。

幸いにも本年度は現在までに、会保険適用のケガ・事故は一件もありません。また山行中の病気等トラブル発生など聞いておりません。なお今後とも、このこととして、万一山行中またはその前後に何らかのケガ・トラブルが生じた場合、該当幹事への申告はもちろん、会長はじめ、少なくとも幹事会での共通理解が大切です。たまたま居合わせた方だけで“内密に”ということは、決してあってはなりません。

ところで広報部のまとめによると、雨天等で残念ながら一般山行の実施が30コース(12月末現在)に減少したのに加えて、1山行当りの参加者数が平均で約17人と比較的少なくなった(極く少数は中止)とのこと。それに反して、バス代は3割前後値上りするし、高年者が頼りとする年金も目減りの一方、私達中高年者には厳しいのは山の高さだけではないようです。更に、世話に当る幹事にも高齢化が及んでおり、内にも外にも難しさが山積しているところですが、来年度に向けて特に女性幹事が頑張ってくれ、それもあって一般コース数も50を越える予定です。月例ハイキングの相変わらずの健調ぶりもありますし、それをキッカケ作りとし、一般山行やその他の活動に益々多くかつ活発に参加くださいますようお願いいたします。